

## 一第17編 一丘の上の塔のまち

現在人口約7000人の小都サン・ジミニャーノ<sup>\*1</sup>の名前は、398年に亡くなったモデナの司教聖ジミニャーノに由来する。この街の発展にはフランチェジナ街道<sup>\*2</sup>の建設が大きな役割を果たした。13世紀には、この街を通る人たちの為の宿泊所が9つあったという記録がある。サフランの生産・流通で商人は潤い、イタリア諸都市をはじめ遠くは北方の



図版17-1 塔が目印のタウンスケープ

ネーデルランドにまで輸出されたという。交易の商いで生まれた富裕層は自らを誇示すべく競って塔を建設し、最盛期には72本の塔が林立した。ただし、最も高い街の象徴『ロニョーザの塔』<sup>\*3</sup>を超えて建てることは許されなかった。

街は1150年にコ

\*1  
San Gimignano: ト  
スカーナ州のコムーネ  
(基礎自治体・自治体の  
最小単位)の一つ

\*2  
Via Francigena

\*3  
Torre Rognosa

ムーネに昇格したものの、その後ベストの流行と内部抗争で衰退し、1353年には、フィレンツェ共和国<sup>\*4</sup>の支配下となった。こうして一時はフィレンツェとシエナの前線基地となるが、1555年シエナがフィレンツェに降伏し、街道が戦略的な意味を失うと、街は急速に寂れ没落した。

このような栄枯盛衰の歴史はどんな街にもあるものだ。しかし、戦後の再生の過程で世の街並を大切にし、そぞろ歩きをこよなく愛せるまちづくりの手法が、ここほど洗練されている例は少ない。トスカーナ地方<sup>\*5</sup>の起伏豊かな美しい自然環境を背景に、イタリアの特徴である丘の上の戦略的まちづくりの姿を、最も美しく今に伝えているのである。

塔を目印に、迷路のような旧市街地を歩き回っていると、いたるところに多彩なレンガ積み<sup>5</sup>の壁の微妙な色彩とテクスチャーが連なる。そして、その表面に様々な窓が、ニッチが、穴が穿たれ、日差しがくつきりとした、あるいは微妙な陰翳を落とす。たしかに谷崎の言うような和の陰翳とは異なるが、ここにも豊かな「陰翳礼讃」の文化は見事に息づいているのである(写真17-1)。

観光のまちをばかにしてはいけない。そこに投影される歴史と文化は、そして現代の保存、改修の工夫は、さらなる重層する人々の思いをわれわれ旅人に熱く訴えかけてくるからだ。



写真17-1 まちなかの陰翳礼讃

\*5  
Toscana: 州都はフィ  
レンツェ

\*4  
Repubblica di  
Firenze (1115-  
1500)